

編集後記

▽本号は、研究所の第四回研究会の報告特集号として編集しました。市民が教育内容を問う、というテーマの趣旨については、本誌一〇ページ八木三男「第四回研究会の基調」を参照ください。▽佐藤一子「文化協同と教育運動」は、当日の記念講演の録音をもとにして、ご本人にあらためて書いていただきました。特に、教育における「参加」と「協同」の国際的な潮流についての見解は、「佐藤先生の講演が明快・率直、とても刺激的でした」というような参加者の感想がいくつも寄せられるなど、好評でした。▽「高校生も大学生も参加した」（八木三男）は、今集会での到達点を明らかにしてその意義を問うた総括的な論考です。▽前号で予告いたしました牧／三輪／八木氏による「てい談」は、録音の再生作業が遅れたため次号掲載になります。▽まだまだ十分とはいえませんが、「親しめる機関誌」づくりへの努力を続けて

いるつもりです。読者のみなさんの忘懐のないご意見をお待ちしております。

（片岡 弘）

▽編集が遅れ、教科書展不会の時期に入ってしまった。新指導要領に基づく最初の検定教科書（小学校用）が各地で展示されています。七月一日付各紙はトップ記事で検定教科書を取り上げました。東郷平八郎・生野科に対する興味も手伝って、入場者が多いように見えました。▽教科書採択の希望意見を上げることができるのですが、無駄なことは誰もしません。私は現場にいるころ、無駄とは知りつつも、毎回詳しい意見を書いて出しました。たった一回、書写の教科書を国語教科書と同じ会社のものにしてもらったことがあります。漢字の提出順序が異なること指導しにくいからです。

▽教科書問題は、指導要領、検定、編著者、採択、現場……あらゆる段階に存在します。覆面の研究員には、教科書の見本セットが送られ、下越水害ではお見舞の毛布が贈られました。学閥の大物が教科書会社に関係していて、夜の研究会には大量の酒が運びこまれ、研究会は名目のドンチャン騒ぎ。報道されない事実です。

▽季刊の機関誌では出来事に速やかに対応することはできません。八社の全教科書に見る東郷平八郎は、「研究所通信」（会報、隔月）に掲載しました。研究所会員になっていただければ幸甚に存じます。

（若月又次郎）

にいがたの教育情報 No.29

1991年7月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
発行人 長崎 明

新潟市東中通1-86 山崎ビル2F

〒951 電話(025)228-2924

振替口座・新潟4-12332

印刷所 (有)あかつき印刷所

長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。